



思考への探求

校内研究だより

令和5年11月27日

No.4

学ぶこと・考えることを楽しむ

～全教科で育てる「言葉の力」

思いを伝え受けとめ(個別最適な学び)ともに学ぶ(協働的な学び)子どもの育成～

11月27日、今年度第4回目の校内研究が行われた。今年度第4回目の校内研究は、「道徳科」での実践となった。授業は2年1組で行われた。単元名「よくないと思うことは」 教材「どうしよう」(光村図書 どうとく2 きみが いちばんひかるとき)を用いて、「善悪の判断」についての道徳的価値を深めていく授業であった。



授業で子どもたちに考えてほしいことは、「自分ごとに置き換えて考える」ことで、「誰かがよくないことをしているところを見たらどうしますか？」という太田教諭の発問に対して、「先生に話す」「優しく注意する」など、子どもたちは積極的に挙手をして自分の考えを発表していった。

その後、太田教諭の手作りの教材を提示しながら「どうしよう」の内容に入っていた。太田教諭の発問に対して子どもたちはまさに「自分ごとに置き換えて考える」ことができている様子で、登場人物の「わたし」の困っている状況や、その時の気持ちを発表したり、ノートにまとめたりしていた。

研究協議会では、元帝京大学教授であり、元全国小学校道徳教育研究会会長でもある飯島英世先生をお招きし、授業と協議会の指導・講評をいただいた。

まず、参加した教諭たちから、今回の太田教諭の授業に関する質問や授業の感想をまとめて意見を発表した。その中には、子どもたちの話し合いの仕方について、発問の意図などについて意見があり、太田教諭が答えていた。



その後、飯島先生からは、本校の研究テーマである「学ぶこと・考えることを楽しむ」について、教師の姿勢として、子どもたちの声を聴くこと、その声を認め励ますことの大切さについてご指導いただいた。それから、道徳科の目標や特質、ねらいと発問構成などのお話があり、最後に太田教諭の授業に対する講評をいただいた。



今回ご指導いただいたことを意識しながら、道徳科の授業だけでなく、他教科にも生かして、文教大学附属小学校全体で授業の質を高めていきたい。